

[O-0209] 10:30～11:30

新しい動脈硬化指標 Arterial Velocity pulse index (AVI)、Arterial Pressure volume Index (API) の有用性

座長：供田 文宏 / 福井医療短期大学

演者：内野 順司 / (医) 社団誠仁会みはま病院

共著者：大釜 健広 1、白井 厚治 2、正井 基之 1、吉田 豊彦 1 / 1 (医) 社団誠仁会みはま病院、2 みはま香取クリニック

【背景と目的】維持透析症例の動脈硬化性疾患の観察に CAVI や ABI の有用性を報告してきた。しかし測定手技は意外と煩雑であった。そこで上腕にカフを巻き血圧測定時の圧力変化をモニタし無侵襲で簡便に AVI、API を測定する装置（志成データム社製 AVE-1500）の有用性を検討する。

【対象】維持透析患者 195 名（M：134、F：61）

【方法】非シャント肢にカフを巻き、仰臥位で透析開始 30～60 分までに AVI と API を測定した。同様の時期に測定した CAVI、ABI、プラークスコア（PS）と DM の有無、心疾患の既往（狭心症、PTCA、弁不全等）の検出感度を ROC 曲線の面積（AUC）を求め比較した。統計解析は IBM Stat Ver21 を用い危険率 5%未満を有意とした。

【結果】DM 且つ心疾患の既往の有無の AUC 値は ABI=.782、API=.725、CAVI=.683、PS=.680、AVI=.634 の順であった。

【結論】API・AVI は無侵襲で簡便に測定が可能で、継続的な動脈硬化性疾患の観察に有用な可能性がある。